

本町の安全安心対策の考えを問う

神奈川県内市町村の中で最小面積でありながら人口増加率が4年連続最も高い町が本町である。

小さな町であるが、急行停車駅となり、活気にあふれている素晴らしい町だと自負している。

しかしながら、本町の町民の生命及び暮らしを守るための安全安心対策は、まだまだ不安なところがある。

安心安全な暮らしを形成するためには、防犯と交通安全は欠かすことのできない重要項目であり、より強固にする必要があると考える。

中でも、駅前交番の誘致、通勤通学時に大変混雑する開成駅南側の信号機の改善、横断歩道の新設はその最たるものである。

一例を挙げると、足柄紫水大橋と町道304-3号線(通称:連絡道路)の最初の交差点では車両同士の事故が多発しており、交差点付近のガードレールの一部取り外し、植栽の紫陽花の一部移動など運転者の視界確保による事故防止対策を講じてきたが、依然として事故が発生している。

その要因は、一時停止標識、一時停止線、カーブミラーがないことによるものと推察する。

過去にも一般質問で複数の議員が取り上げているが、一向に改善されない。地域の安全安心のため、早急な対策が必要である。町の見解は。